

別紙1-1

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※	甲	第	号
------	---	---	---	---

氏名 細田和貴

論文題目

BCL10 as a useful marker for pancreatic acinar cell carcinoma, especially using endoscopic ultrasound cytology specimens

(BCL10は膵腺房細胞癌の診断、特に超音波内視鏡下穿刺細胞診

材料における診断において有用なマーカーである)

論文審査担当者 名古屋大学教授

主査

高橋雅英



委員

名古屋大学教授

委員

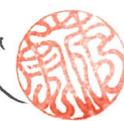
豊國伸哉



委員

名古屋大学教授

後藤秀実



名古屋大学教授

指導教授

中川章男



論文審査の結果の要旨

膵腺房細胞癌は膵腫瘍全体の 1-2%を占める稀な悪性腫瘍である。形態学的には膵管癌や内分泌腫瘍との鑑別が問題となるため確定診断には免疫染色をはじめとする分子生物学的検討が必須である。近年、膵腫瘍の診断モダリティとして超音波内視鏡下穿刺吸引（Endoscopic ultrasound-guided fine-needle aspiration (EUS-FNA)）が普及しつつあるが、EUS-FNA の検体は概して量が少なく、診断には特異性の高いマーカーが求められる。

BCL10 は低悪性 B 細胞性リンパ腫で発見されたアポトーシス関連蛋白であるが、近年膵腺房細胞癌でも発現を示すことが報告された。膵腫瘍における BCL10 免疫染色の診断能を検討した報告は少なく、また EUS-FNA の検体での有用性を検証した報告は未だない。

本研究では腺房細胞マーカーとしての BCL10 免疫染色の有用性を検証し、EUS-FNA 検体への応用について検討した。平行して trypsin、神経内分泌マーカーの免疫染色、KRAS 遺伝子、GNAS 遺伝子変異の検討も行った。

本研究の新知見と意義は要約すると以下のとおりである。

1. 膵腫瘍 126 例に BCL10 免疫染色を行った結果、腺房細胞癌の 82% (14/17) で強陽性を示した。また腺扁平上皮癌の 50% (2/4) に陽性がみられた。その他の腫瘍ではほぼ陰性であった。
2. 58 例の EUS-FNA 検体を用いた検討では、BCL10 は腺房細胞癌 (9/13)、および腺扁平上皮癌 (2/4) の角化細胞にのみ陽性で、その他の腫瘍では陰性であった。腺房細胞マーカーとして代表的な trypsin の免疫染色と比較し、より明瞭な染色態度を示す傾向を示した。

BCL10 の腺房細胞癌での特異性を確認し、鑑別診断上問題となる膵管癌、膵管内乳頭粘液性腫瘍、内分泌腫瘍との鑑別に有用であることを明らかにした。また微小な EUS-FNA 材料においても腺房細胞癌の診断に高い有用性を有することが示された。

以上の理由により、本研究は博士（医学）の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。